

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 31 年 4 月 1 日改正
(平成 31 年 4 月 1 日適用)

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

② 施設・事業所情報

名称：岐阜県立陽光園	種別：障害者支援施設	
代表者氏名：古田 裕彦	定員（利用人数）： 60（52）名	
所在地：美濃市立花1155-5		
TEL：0575-35-0511	ホームページ：youkouen@gifu-fukushi.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：昭和51年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 岐阜県福祉事業団		
職員数	常勤職員： 33 名	非常勤職員 19 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	サービス管理責任者 2 名	管理栄養士 1 名
	介護福祉士 28 名	防火管理者 1 名
	社会福祉士 1 名	特定行為業務従事者 21 名
	精神保健福祉士 2 名	
	看護師 6 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	1人部屋 3室 4人部屋18室 ショート部屋 1室	特殊浴槽、一般浴槽、入浴チェア AED、DVDプレイヤー、ゲーム 機、スカイリフト、食堂、作業棟等

③ 理念・基本方針（※転載）

<理念>

お一人おひとりの思いに寄り添う

<方針>

身体障がい者を対象として障がい福祉施設であること、公の施設であること及び県におけるセーフティネット機能を有した施設であることを踏まえ、次の施設経営の基本方針に基づき利用者の処遇の向上及び施設の維持管理を実施する。

①利用者処遇業務

- ・「ノーマライゼーション」の理念のもと、利用者の権利を尊重し、一人ひとりが心豊かに生活していただけるよう支援する。」
- ・権利擁護とサービスの質の向上

- ②地域で生活する障がいを持った方や家族を支える拠点施設として地域福祉に貢献する。
 - ・在宅障がい者等の支援
 - ・地域の関係機関・関係施設との連携
 - ・福祉人材の養成と福祉教育への協力
- ③地域と協調を図り、地域交流の推進、施設ボランティアの受け入れ及び情報提供を行い地域に根ざし、開かれた施設とする
 - ・施設経営委員会・地域連携推進会議の実施
 - ・地域交流の推進
 - ・施設ボランティアの受け入れや地元雇用の実施
 - ・安定的な経営の実施

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・個別対応の時間（ゆとりの時間）を日課の中に位置づけ、定期的に本人の希望に応じた活動、支援を行っている。
- ・移動スーパー、コンビニエンスストアやカタログ注文、衣類販売など、利用者自身に選んで買い物をしていただく機会を定期的に設けている。
- ・利用者自治会活動を支援し、利用者主体のサービス向上に努めている。（毎月1回、職員と利用者との話し合いを開催）
- ・職員朝礼時に、誤薬予防の努めを読み合わせし、誤薬事故防止にむけた意識統一を図っている。
- ・短期入所事業所、日中一時支援事業所として地域の方を受け入れている。
- ・近隣小中学校の生徒の施設見学、中高生のボランティア、ワークセミナーを受け入れ、福祉への理解を図っている。
- ・草刈りなどの環境整備、車椅子清掃や朗読ボランティアを受け入れると共に地域の行事に参加することで、地域交流、当園、福祉への理解を図っている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 7 年 8 月 2 8 日（契約日） ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	4 回（令和 2 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

<個別性を深く理解し、実現へつなげる支援>

利用者一人ひとりの思いや願いを丁寧に受け止め、その実現に向けて寄り添う支援が行われている。たとえば、「長良ふれあいマラソンに参加したい」という利用者の希望については、その思いを個別支援計画に反映し、リハビリを重ねながら準備を進めてきた。その結果、実際に

大会へ参加することができ、本人の大きな喜びにつながっている。また、その人ならではの言葉づかいで思いを表現する利用者に対しては、日々の発語と行動を丁寧に照らし合わせながら意味をくみ取り、「よく使う言葉と伝えたい内容」を一覧にまとめている。こうした取り組みから、利用者を深く理解しようとする姿勢がうかがえる。

<高齢化の進行を見据えた冷静な分析と前向きな取り組み>

利用者の高齢化に伴い支援内容が変化していることを正確に捉え、高齢者分野の学びを深める等、必要な知識を積極的に取り入れようとする姿勢が見られる。今回のヒアリングでも、利用者・職員・ボランティアの高齢化や利用希望者の減少といった課題を率直に共有し、今後の方向性を冷静に分析していた点が印象的である。また、これまで培ってきた計画性やチームの結束力を強みに、変化に対応していこうとする前向きな姿勢も感じられる。こうした取り組みから、今後も安定した支援が継続されることが期待できる。

◇改善を求められる点

<外出支援や社会参加の機会の拡充に向けた継続的な取り組み>

コロナ禍の長期化により、外出や社会参加の機会がこれまで以上に限られてきている。また、利用者の重度化が進む中で、外出先での食事形態やトイレ環境への配慮がより求められ、従来のような外出支援が難しくなっている状況にある。そのような中でも、利用者が少しでも外の世界とつながり、楽しみを感じられるよう、職員が工夫を重ねながら支援を続けている。今後とも継続して、外出支援や社会参加の機会の拡充に向けた取り組みに期待したい。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の福祉サービス第三者評価の受審を通して、支援のあり方や施設経営について見直すよい機会となりました。評価では、良い点や改善すべき点などにつきましてご指摘をいただきました。今後、改善すべきと指摘された点については、継続的に改善に向けた取り組みを行うとともに、評価の良かった点についても更なる改善に努めることで、今後、多様化するニーズに対応した支援の提供に努めていきたいと考えています。

新型コロナウイルスにより長期間にわたり地域交流が制限され、その間に当園と関係団体の皆様の状況も大きく変化してきております。令和7年度の園内の行事にはコロナ禍以前に参加していただいていた複数の団体に来園していただき交流を図ることができました。今後も、地域に開かれた施設として、さらなる地域貢献に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

⑧ 第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。